

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：社会芸術・寺山支部 炭焼の会

27A-19

代表者：支部長 萩原 哲哉

URL : <https://artngo16.wixsite.com/socialart>

1. 活動が必要とされた状況

見沼・さぎ山地区には多くの環境保全団体が活動する。社会芸術は地域の要望から8年前より参入。翌2017年に炭窯を設置し、「野良の藝術」を標榜して活動を続けている。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・ 平時にさぎ山の農園で里山農を続けながら、毎月の公開ワークショップを開催（毎回10～20人）。竈を設置し、本来の食のあり方を探求。炭窯で廃材を炭焼き、農業廃棄物（穀類）の燻炭焼き（*①）によって燃料炭と農事用の有機資材を確保。同時に、炭素固定と環境保全に貢献する。これら日常活動が11月のイベントに集約される。
- ・ 炭焼の会主催で「野良の藝術 2024 創造性の根源を考える」（11/2～11/12）を開催し成果品が出品される（*②）。約800人の入場者があった。また、会期内（11/8）に開催した「フナノ・シンポジウム」では「フナノ保存会」との協調がされた（*③）。



*①アートオブジェによる燻炭焼き



*②竹製のオブジェ



*③延命寺で行われたフナノ・シンポジウム

3. 活動の成果

- ① 創造性の根源を農に求め里山農の実践を開始し、賛同メンバー（10人）が集結する。
- ② 炭焼や燻炭焼の熱分解が理解され、バイオ炭の農と環境保全に有用意識が高まる。
- ③ 竈の設置により農と食の結びつけ、薪火の炎と熾火（遠赤外線）の熱の質を体感。
- ④ 農家との協働で、失われた伝統産業・赤山渋の復活を手がける。
- ⑤ 「秋フェス」との合同開催で都市住民を誘い、地域コミュニケーションが闊達化。
- ⑥ 「野良の藝術」実施とワークショップの全ての場面で、野良の思想が通底していた。

4. 今後に残された課題

慣行農業を改め、バイオ炭や堆肥、木酢液の有機素材を活用し、土壌回復に至る里山農を目指している。緊急課題として最低限の農耕機械と資材置き場の確保が必要。また、活動内容と名称の一致から「炭焼の会」を「野良の藝術」への変更を検討している。